

会長講演 PL1

中津における高気圧・潜水医学のあゆみ

川島眞之

第58回日本高気圧潜水医学会学術総会 会長
社会医療法人玄真堂 川島整形外科病院 院長

当院は1981年に19床の医院として開院した。開院3か月後より第1種高気圧酸素治療装置を導入した。1984年に第2種装置を導入、その後、1989年には2基目、2005年には3基目の第2種装置を導入した。2013年に病院を新築移転してからは第2種装置2基体制で運用している。

開院時より2024年3月現在までで1万613人の治療を行っており、記録が残る2011年以降、2024年3月現在までで延べ31.5万人以上の患者を治療している。その内訳は頸髄症、脊柱管狭窄症、難治性皮膚潰瘍、骨髄炎、突発性難聴、軟部組織感染症、減圧症などであった。

特に整形外科病院として、長年、化膿性骨髄炎をはじめとした骨関節感染症、軟部組織感染症に対して多くの治療を行ってきた。骨・関節感染症の症例に対しては高気圧酸素治療（HBO）と抗菌薬投与による保存的治療、更に必要に応じて外科的治療（病巣の搔爬、閉鎖式局所持続洗浄療法等）を行っている。

化膿性骨髄炎の症例についてはHBO導入前では外科的治療症例256例中23例（9.0%）が成績不良であった。HBOを導入してからは、HBO施行症例773例中481例（62.2%）は保存的治療で鎮静化（良）もしくは軽快（可）した。残りの不良症例（不可）のうち、持続洗浄療法とHBOを併用した265例で最終的に不可であった症例は14例（5.3%）であった。HBO併用の全症例773例中、不可41例（5.3%）であり、HBOを併用したほうが不可は少なかった。

また2009年より骨・関節感染症の保存的治療における創処置や持続洗浄療法の洗浄液にオゾンナノバブル水（Ozone Nano bubble water：NBW3）を使用している。2009年11月～2023年6月の間、化膿性骨髄炎や化膿性関節炎に対しNBW3で持続洗浄療法を行った症例では、123例中、良が110例（89.4%）、可が7例（5.1%）、不可が6例（4.9%）であった。一方、非NBW3使用群では277例中、良が79.4%、可が15.5%、不可が5.1%であり、統計学的にもNBW3使用群の方が良好な成績であった（ $p < 0.05$ ）。

減圧症に対しては24時間救急体制で長年受け入れてきた。1981年6月～2022年5月の間に当院で再圧治療を行った減圧症は614例であった。ベンズが465例（70.6%）で最も多く、次いで脊髄型が97例（14.7%）、脳型が71例（10.8%）、肺型が18例（2.7%）、皮膚型が7例（1.1%）、四

肢の浮腫が1例（0.1%）であった。治療成績は治癒が568例（92.5%）、改善が40例（6.5%）、不変または悪化が6例（1.0%）であった。病型別治癒率は、ベンズが97.4%、脊髄型が77.3%、脳型が78.9%、肺型が88.9%、皮膚型が57.1%、四肢の浮腫が100.0%であった。